

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-111	実施計画番号	130	事業開始年度	H26
事務事業名	プロジェクトマップ事業			事業終了年度	
担当課名	観光推進課	事務の種類(選択)	自治事務		
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	集客効果のあるプロジェクトマップを使用し、①映像を大学生が制作するという学生が主体となる観光イベントとしての可能性、②市のイベントと飲食店等主体のイベントを併催することで、経済の活性化へつなげる仕組みの構築、という市街地での冬季観光の新しい試みとして開始した。				
事務事業の目的	学生が主体となる市街地での冬季観光イベントによる経済の活性化				
実施状況	H26は3ヶ所で行ったが学生による映像制作は1ヶ所、また3ヶ所周遊後の飲食店への誘客が時間的に難しかった。 H27は2ヶ所に減らし、全て学生による映像制作となった。飲食店では新たに実行委員会が立ち上がり各店舗で特色を活かしたメニューを提供し活性化につなげることができた。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	30	30	30
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		13,000	10,100	11,992

【指標】

活動指標	活動指標名①		学生による映像制作数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	学生制作数÷実施個所		%	33	100	100
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		来場者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	来場者数	人	目標値	8,000	6,000	10,000
			実績値	8,000	8,500	
			達成度(%)	100%	142%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">学生が協力しづらくなる恐れもあるが、実行委員会形式にしたほうがより自由度の高いイベントになる可能性はある。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	1 / 4	学生が協力しづらくなる恐れもあるが、実行委員会形式にしたほうがより自由度の高いイベントになる可能性はある。	
	存在意義の見直しの余地	1 / 4								
学生が協力しづらくなる恐れもあるが、実行委員会形式にしたほうがより自由度の高いイベントになる可能性はある。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	B	1	3					
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6		
	成果向上の余地	0 / 6								
	④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		6			
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">アーツ・トワダ ウィンターイルミネーションと連携することでの事務費削減が可能。H28予算要求に反映させている。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	2 / 6	アーツ・トワダ ウィンターイルミネーションと連携することでの事務費削減が可能。H28予算要求に反映させている。	
	コスト削減の余地	2 / 6								
	アーツ・トワダ ウィンターイルミネーションと連携することでの事務費削減が可能。H28予算要求に反映させている。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	4					
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4		
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2	4					
現在の適性					17 / 20	改善の余地	3 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択)

効率性を改善して継続

方向性の理由

アーツ・トワダ ウィンターイルミネーションと連携して事業費の効率化を図っていく。

今後の具体的な取組方策と狙う効果

アーツ・トワダ ウィンターイルミネーションと連携して周知費用や点灯式などの事業費の効率化を図っていく。また、引き続き市内の飲食店で組織された十和田バルフェス実行委員会が実施するグルメイベントとタイアップして経済波及効果を高める。